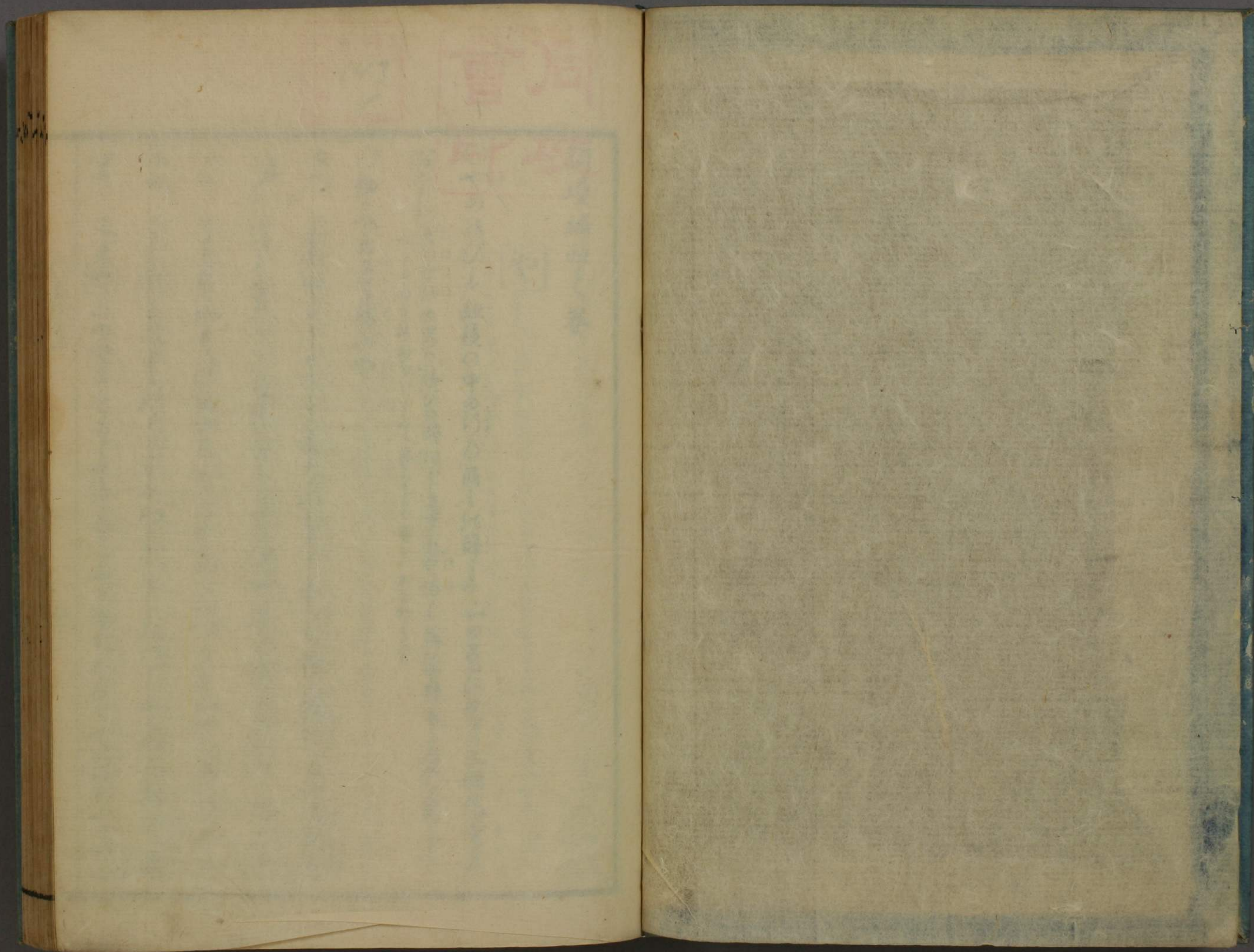


辭之玉の緒
(五)

ホ 2
143
4





利水門
149
卷

同會

詞瓊綸四之卷

詞瓊綸四之卷

や

や

の結びも。紐鏡の中のひ乃ほく結辞も。一の巻にゆき三階徒奇乃

おろ。ぞのや何の思ハ。結びの辞はどき申也。や何を結びの辞あるあふ。おろろ

○翻るぬきみて結ぶや

右一 ふふゆいーさろーこちり結むるふふうちあるはや喜のえ川を

後注 右一 つとあくこちろをあるとがこひやふど結言振ふかへふふを

千四 つる月結むる結の床や志をゆかづき心のた赤川のる

詩九 こまやさは重結をふあるときたつてあるぬる乃を衣

万一 こまやらのやまやあしては日がこあまきらふをふあふせの心

月十八 **あき** **や** このふふふ鳴門のづづーあふふ康うさふあぬさあどと

いせ 柳屋 **こま** **や** このまのまごうと **ぶ**ーをまがみさーとなてまつりらと

又

合 **ち**川香ハまおは葉まろく海まろくと **や** 小野山のをたさびーさ

好 **み**ぞもろりりりねるを乃まどほのまほさせぬ **や** まろがまのこさ

い **い**ひかーて **は**びーさまろがまろくまろくハ物く羽の言あるを物ぬ舞の夜

新 **い**ま川ーまろ **や** まどは秋の夢下はいまのた松のゆふうた

ま **ま**ハやのまをまろく秋とつふまへうまを舞うまどハかくらび。物ままの秋まやが
て下ハも羽むて秋の夢とつまをまろく。それを上のまろく。いま川ーまろやまろま
ま秋あらん秋の夢のまろくとつまましけまのまろく三のまののまろくといへ

千 **た**りひおよゆべ乃まろとたまむらば **こ**ま **や** 歎きたへぬらり

新 **あ**もまおをわが身はま **や** 浅みどりつひまのまへのまろくおり人を

月 **あ**ぐりひひてえー **や** まろととまろぬまふまろまろまろまろの月報

あ **あ**まろとまのまろくまろぬ言あるまどとまて下へまろけーまろく

○いひうをわて **は**ぶ **や**

後 **こ**ま **や** 赤のゆくともろまろまろまろつあるまろぬもろあ板のせき

月 **ま**ははまろまろまろみつの浦まろに **こ**ま **や** このまろくまろまろ

後 **あ**らまろくまろまろまろまろまろまろまろ **や** おでのま吹乃花

全 **ま**ろまろまろまろまろまろまろまろまろ **や** ひふまろまろ

新 **ま**ろのまろまろまろまろまろまろまろまろ **や** まろまろまろ

月 **ま**ろのまろまろ **や** まろまろまろまろまろまろまろまろ

ち十 彼のし川 ぬえとをむせみとせう。むろそむ神りそふかひん。 や

後十五
の世系

また葉より縁をぬきぬきかひん。 や 若むゆら香粘りしとれむ
たのびくんやとつてく文をわらうてあまいつくまれし

後廿
十六

かしと本はゆきとの下葉とせむふあねれめと や のまきん
つとハは害あふせりきえぬと や 立ちたぬぬつたて

大和物語

狭衣 あふほきあふゆきうつりまぐんと や 葉のまぎしとむろくうあくに

件のまぎしとのびくをうむてそよと切らるまれし。あははむらとそよハ。あわハ
切らるやあり。又まやとつて切らると。文あはわられし。あまはむらとそよハ。
狭衣袂ハあまきぬしつれりや。神をひききひあひありまらつ。けさやハ切ら
ぶ。まやちれやとつてつと結ば格あれいぬし。こまはく結あきぬとつむり
まやまよりのくまのあを合くはらまらぬ。結あをそりまきとんるとしてこ
そよくをふらんと結あをといくとまらそ。つとハまらめらひりきん。又秋だを
云秋のまをまらひもてや。え方の月のまらにこがじの風。あまらぬまら秋のよハ
月見よとてや。長月のあひりまらにりぬか。風雅にわきまきと人のまらむ結

まやまよりのくまのあを合くはらまらぬ。結あをそりまきとんるとしてこ
そよくをふらんと結あをといくとまらそ。つとハまらめらひりきん。又秋だを
云秋のまをまらひもてや。え方の月のまらにこがじの風。あまらぬまら秋のよハ
月見よとてや。長月のあひりまらにりぬか。風雅にわきまきと人のまらむ結

あふほきあふゆきうつりまぐんと や 葉のまぎしとむろくうあくに
のらりあふむて切らるとの二つをて。あのみくし上よりあひ言は格より定まり
わり。あひむあふく や の上ハ。かまむらむらぐ格の辞よりをあげ。とらりあふ
あまき や の上ハ。必切ら格の辞よりあまが定まりし。 ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり さてなまむにわく や の上ハ。つぐく辞
一のまむのまむめにくさくさくしつらむら よりあまらむら。たうとたきもあづら ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり まき切ら や の上ハ。必切ら格の辞よりあまらむら。たうとたきもあづら ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり ききて。一つとけら ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり くるあかりしを。後玉の人たきもあまらむら ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり してはけりて
ほらぐ格の辞よりあまらむら ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり とわや。その例を一つ二つ出し ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり てあまらむら ほらぐ格の辞とハ。 紐後の中ハの格と
あり。切ら格の辞とハ。あむの格とハ。けり とい

○やをまゐる極くさへ

右一 身はしらふまのまふりさ一と世をこぞとやいんころとやいん

同十五 美ふいふあまのうかろくぬゆくはあやいほね人やとをあく

計八 一とまがく苦はあつてつう那かろやうつろよやま

保氏 夕秀 わもれまといふありてうなぐさせん何やあきまきやうあき

右三 秋やうきさきやまどつほろきさをあやどをいもるがてふあく

同十三 志やういそれやけきんたをいぞまうつう福てうはえてう

同十五 月やうぬまやひうはまあうぬあまあまのあまのあまて

凡 一春を花や雪かきやうがりのあまふにけきねふうあまあま

右八 えぞううぬやううえよ命ううあまやとてう人やとぬと

同 一 志やとま花やあまきとまうこかんまうあまあまあまあま

右十三 あどやあんきやせんとの川鬼はす川の心をあひやらん

右 志やこんあやゆんののさよひあまあま板たもさげあま

志のあたハいあなばあくやのまあやし
又切くやのまあやハ

計七 志の川かろくまうきとろあうりんお茶は橋をちるやちうげや

右 志すまぬや志のがやいふ何をぬまはねえとあ一あまぐさのえ

計十三 夕暮うし命かけううまうああまやうげやうあもえあ

右十二 ぬの老とやいあとやいふいあね乃まどと信一福もへふる

右九 名あ一あまううまうりんみやこまうあま人をけりやあやと

又

○あまの

○水

又

橋門

みるがくふあろとろけむ忠代乃松^やしぬとくし結びおききん

又

こまハカいささそりのり先づし

後

と川看はいの^やあふのよ向していきぐ生田のりなは白ゆめ

ま

こまハいの^やあふのたむきぞと切てさあまやそ下つづきよりめづし

後

あがりの^やいづこぞしるのぬあまきおんこぞうあま

新

みるかろの^やいづこぞさささくしあまをへよよのめつりね

新

ゆきやぬらう^やあまぞ秋のせはさひの事さしりじとあま

又

ささくハぞを修り

後

なまづ川あがると痛まるとけりのまさくさうりの家^やなふあま

此れを修り。このまま格の修り。かせり考へるべし

又

新

みる^やいぬうそをさるる風ふもま川あまはさうひをたぬ

こまハい^やあまぞ上のあま^やの修りあま

○なご^やあま^や

凡

うそがはさうぶがあま風はたがゆくしとあま^やあまこぬ

千

あま^やかくそとさるがたちを修りわがましこまハあま^や

六

いぬとそ^やこがまをせえぎきんおいざばつあま^やあまこぬ

後

あま^やあまのそ^やあまのそ^やあまのそ^やあまのそ^やあまのそ^や

扶

あま^やあまはあま^やあまはあま^やあまはあま^やあまはあま^や

廻

あま^やあまはあま^やあまはあま^やあまはあま^やあまはあま^や

後古三
後古二

あぞ **や** かくあべむらうー花びらきうらむせむらうはまらづらん
けさハあぞやとて切て下へ流してはてふまそそのそん

大うー何きお下ハいまかとおる例あふ。たのどくなどともぞとの

二つのも **や** とあふ修あり。その中にまどハかとおるがあらうして **や** と

あふらうとさくわー **や** とあふ例のもそかとおるこほし。

○あふまわやうつあま **や** あぞハ別お下のも **や** の條よおせり

○ **や** とおれこの **や**

ちみ うきーと花まらうらふ有ー葉うつらふおふらんと **や** と

日工 秋乃田おかのうへとて流いさづらお光のまわとこ **や** と

日古 ちららまぞらりまき物とふりいゆるえぬあうー **や** と **や** と **や** と

後八 りみら葉も時首も流ししま他もまやゆらん人をあり **や** と **や** と

日十 難波ぐさかりつむ草のこーづおむへもまをうと **や** と **や** と

ち一 えてのこ **や** 人へかへん。しはらうもあふおてあづとあせん

ちとみまなかなあや **や** じ
け下ハいさ **や** ち **や** ち

ち一 うやこぞは明日ハ若さぞゆりまきーきえげハけりは花と見えー **や**

日十五 あうろくおうとそふくら花像ごうばうつら **や** と **や** と **や** と

後古五 けらぎうばさく人のみさうま **や** 様のけハはらうとありら

後古三 きらきー **や** けらきー **や** けらきー **や** けらきー **や** けらきー **や**

さびて **や** けらきー **や** けらきー **や** けらきー **や** けらきー **や**

後二十 りらまこふおきぬー秋のあまうりやらんおと。おりひうけま **や**

新八 浅茅りくそくねくおきー 草花上のあを肌見とたりひりきまや

衣のま 新 いあーへらふりひりけきや 新 さらりーかきまん物と『のりお夜を

招三 かりおとくくべりりきや 新 秋の地おさるる御りー日と昔おべー

新吉 ちぎりきや 新 あうぬ日くれの落おきー何つぎぶりのかこんきとハ

右六 かりひきまや 新 おおれにゆきにおろへる海士の繩くらりせんとハ

後十 かりひきまや 新 色えぬて何りゆよりかぞおさるにきんりのとハ

右六 ちすとしてハ菱うとぞおかりひきまや 新 春物とふてきさんんとハ

後二十 春は兼乃美のしらぬとかりひきまや 新 志なきをゆきてんんとハ

新 新 きておひきまやのヤハきやとのん 新 おひきまやーくたかあうげなと 新 おかひなきまきーおちかかきま 新 ーくぞのんもま 新 たり

衣のま 新 おりひきまや 新 おらのころをほとくくぬまきめて海かあんと

こはハとことマがきり
又まを上げりおろもり

後十六 まらこちお人おまれあふ里りー 赤居せんとはかりひきまや

千十五 りた人をあべーとハたりひきまや 新 じがあらるさへおかちらん

又上よとのん 新 又上よとのん 新 又上よとのん 新 又上よとのん 新 又上よとのん

新ナ 年たさる又おべーとかりひきまや 新 命ありきと佐助の中ハ

又上よとして 新 又上よとして 新 又上よとして 新 又上よとして 新 又上よとして

後七 かけてぶおとがおれうと 新 おひきまや 新 さん身まの花をえとハ

おひきまやハ 新 方さし 新 時ハ 新 おひきまや 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ

て 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ 新 今ハ

ひきま 新 ひきま 新 ひきま 新 ひきま 新 ひきま 新 ひきま 新 ひきま 新 ひきま

○やえ

古一 喜ばれぬ乃やハハやあーいふはあふをんは祿よ やえ かくる
 二 吹風をちきそーいふようぐひは やえ 花ふよふあさ
 八 いろそとふ鳴てぞえよきりぐを秋のふきハ惜く やえ けいぬ
 同 九 かくあろ色なきバオにこそまつさめか多そ やえ ちんごひ
 同 十 野とちうぶづつと鳴く やえ ちんごひ
 同 十一 ちんごひなき やえ さまぐ 〓 山川乃 清き瀬ふこそあざはら
 同 十二 時一色 やえ 人のあふべき 〓 あふるふふい やえ きのり
 同 十三 ぬがうちふん やえ さの やえ 美といん 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ
 同 十四 かくとふえ やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

全八 けのぬけまろ やえ 人をつく 〓 君こそけりき 〓 けり 〓 けり

けりハケのまろのまろ
やえといふふり
やえニつら

同 九 いそふ吹風 やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

女のちんごひの中におく
やえと
ちんごひ

同 十 ちんごひの やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

同 十一 いその やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

同 十二 ちんごひ やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

同 十三 ちんごひ やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

同 十四 ちんごひ やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

同 十五 ちんごひ やえ ちんごひ 〓 ちんごひ 〓 ちんごひ

日四 せへく **やえ** 日ひりのそとへくせんむぐらね家の秋乃ゆがら

日四のやえハ老づくしきつうひがぬし下へつづくやうなほど。後がきてハてふそとそ
のもん切してさまふあゝやえし

千古 人ぼてハさし色 **やえ** ともしややうん見せむやふふなうさすぐさ

こせハやえとくちまををこしててつげうり。秋後たき十七好女あまびいあさ
くまふあま中に家ゆきしハまきわびなやえけやえはんねむ。秋島のやえを
飾るるやえまよとつるまやしきまらして

又一格

古一 けくくあまきくつさくさくさくおと人のあくらあけくれ **やえ** せぬ

月二 ほろぎの秋も色ゆきむらむらこきくふふあまあま **やえ** せぬ

新十五 おりひやあくららあそにあらやえけくれの言さあせ **やえ** せぬ

いせ糸 秋のせりりぬぬくきく秋花ぎきあひあまをまき **やえ** せぬ

原氏
みまつる うらつをけ日かきさくしむかてうそ思りん方りきくひ **やえ** せぬ

日 若のうね ぶ宿れ若乃りりこききたそくれあぬ **やえ** せぬ 玉けきくうりけ

後十一 道あくらや **やえ** 一あぬ 色返乃宿あまはくみとく **やえ** せぬ

件の上のやえハ一つの格も。秋の華れんがうとあてくし。あまのうらとやえせ
ぬハ何とあけぬるぞ。うらとよかーとあてくし。うらとやえせぬを。何とあてぬと
ぞ。こへよかーとあてくし。あまのこもあまぞうへてんねべー。後換あゝやえ
と一あぬやえやハせぬらやへはまの辞あり。

○ **やえ** のまじやえ

新十五 おくおろしあまかりくぬ柳葉乃あま **やえ** 人のあまてきうらん

古十八 よけ中ハむりよる **やえ** けかりきん 秋牙むらみのあまあま

新十一 よせにのそ見て **やえ** こしん うちあめ未つむさ乃あふいぞむば

日五 かづきまや **やえ** 久あめの格つうり あまゆく秘をあまそあひ

屋敷
十三 たまじ **やえ** 又とあまべきつうあらん あくよりあまのあまあま

日十 六 みすけのちのちの色は若くみのりみおのりもどがらひ **めやと**
後十二 けをへりくさざら **めやと** 思へどもへなま人のこころありきと
右 雲威 心一ね乃言ねの書紙の書りだみ人乃まらどくさかひ **めやと**
後十三 後十三 あぶ岐乃言師のまぬれをまきねをまきだかけわがこひ **めやと**
日一 ちゆくに書物 **めやと** うげうめれおやうき日とぬし **めや**
めやとハ多葉ノ一イナリ **めやと**ト曰ミシテ葉ハ **めやと**ト云フキ
正ノハ **まか**ト
右十二 はのぬれをあなの河一れをともふまがきこが人まら **らめや**
後十八 あーの乃山ト云うみるくもとことさかこいもまがめ **らめや**
後九 十二 **らめや** 思へ人老をまらるは思ひ **らめや** **らめや** **らめや**
らめやハらんやとのまあり

○まや **めや**
右四 秋の野にぬくまへる **まや** けくぬまうら **らめや**
日十一 里のあまを人まらに **まや** 春もまがれも秋のゆくま **らめや**
日十 くれきやどまれまき **まや** 侍ひて思ふ **まや** 人まらよ **らめや**
日十一 いせの海にけをま **まや** 海人のけを **まや** 心む **まや** 思ふ **まや**
日十二 くれきやどまれまき **まや** 侍ひて思ふ **まや** 人まらよ **らめや**
日十三 くらがま **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや**
日十四 まはの河ま **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや**
日十七 思ふ **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや**
日十八 思ふ **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや** 思ふ **まや**

後六 却ぞうしけむきこひのちりき **きや** 鳴つゝあふ入日しきしん

日八 五の川をはこゆりにそぐらぬ **きや** 岩るんにまうきふとせぬ

日十七 ちくちくのまやうまむれ小ま川糸枝ちげ **きや** 日け光えぬ

日二十一 おぶつうさうふほのしぬ人き **きや** しがの葉茂くごがやあ

このてやハ葉とさふゆこくふいへ。ゆくにそのふを履きてまやといつ例者。かあひのふあやまのふをまをこもきてまやといつ例也。葉茂ハかたもつはにあり。ゆきふやをゆきやといひ。あへやをあへやといふまむも。まはまやハ詩切まごトへつきてそぐをハ葉のむいなり。

日十九 昔されをゆべふまぶさくえせどあぬむ **きや** しほひまのいげれれを **きや**

日十一 ちよととくうしおととておんり **きや** ゆせみたまぐらうう下ま

源氏 ちやうしめ海士のちうとにみくち **きや** しまつてほみぬし **きや** しが神

ちのせいハせむとやえといふまをて。花の名をまやハ花のまのりやんまのいついたのちやハつれしやうに。まのうへうをまをて。まのなまをまをて。まのなまをまをて。

日十三 風ふきをほく川巻結ま川 **きや** 根ふつらてさきぬへらあ

日十二 うつあもつゆぬあろハゆあな **きや** いてとさきあかり人む

日十六 ちよち **きや** ころごまぶつづ月報をらあ **きや** いてん昨日やい

日十六 わうまぢはえーた人乃ゆ **きや** やがそのまをえまくやりれ

日十五 みのり **きや** まだふなき浦 **きや** ちよちもれぬてぬ

日十五 川くみやけゆぬ乃池のうたぬをさく **きや** くら人もあ

日九 世中はうた身にもつうけな **きや** あひまつまをあれざり

日七 親るぬまのたぬ葉は月な **きや** 出ても人 **きや** まるに

日 しがまはし **きや** 野はつ乃奥な **きや** かりひの道をわい人もあ

千
本
夏
天
本
夏

公がぐらよ本をぶがト結うりさあにそをど やらん かくづきもせぬ
 春のゆくーゆごもふくけてゆくまづのーをど やらん 物ありさあ
 べてやらんとりやちやーき辞まで。ちうもて文もこふくハやくいむ。今の
 世の人こまをうた詞とあやをぶらんぬし。たのふあるやあのをまのちも。むぎんを
 さりーと誰ぞうまうり。

ちがれよまこままでこの儘くハみる影ひ乃やあり □

● おげき 歎息のや □

ながきくハ。後まのうたうゆひうまーむもんのしりりやせむ。
 さああうげうれーきあこあひーしんあせむハしんあひあわ
 うりてきてんよはく癒せうあ、あま、あう。息をきくーもし。まてけやま。
 この歎息のまあ、あま。うりり歎息のやーししてまのあまがてり。

古一 何ーがとれさへ入は乃うはのちうど や 人をかくらひんハ

日十九 思へぞとありそむぐのしりあまは や ありたりかりひち
 月十六 よの中はいうふ や いうふ風の青地まーあまのハ物やかあーた
 月六 一むそこか や くれむたう。あまのまもえやハさむ。
 月五 孫ねあはの孫ねあはのままをまあ大津のい や するあ
 月三 きうぐら孫あまー物まほそぎん や 上ハ乃一勢
 月八 何の道あゝわが身あま や 後みどりつひまのせへの度とかりん
 月十 人をわわうーみつべー や 故をうやとふもさあまは
 古一 かしが根を福うーこー吹風を人あま や かくつてやん

万五 何ぬそがやちふとがと[□]や[□]みやこまでかりまきてらむつらよ
 全七 池うりむむとがなまきりしけりかへも物おもがね[□]や[□]人をうらみド
 狭女 あさりまき海士もとがね[□]や[□]とつ海の座乃お藤もかづきえらぶく
 後十五 ちく川のふたのいとたまりなれどみづりに人をよせド物を[□]や[□]
 伴の言たのやち多敷息たやうてこまは除きてもここの下ドあ
 られたけりドめてその情係くあらし。或々よ或ハなるをふぬい。又
 うあくらふさふも毎つり。志の印古や二あきやま。日三やよまて。後
 括き三いさびやまへ海三三くや秋風あふのや。又りでやうさや
 け[□]や[□]の歌。又れお[□]や[□]あ[□]ら[□]のや[□]う[□]い[□]や[□]う[□]さ[□]ま[□]や[□]あ[□]ら[□]が
 ら[□]や[□]あ[□]ら[□]のや[□]う[□]い[□]や[□]う[□]い[□]や[□]ま[□]の[□]歌[□]の[□]や[□]も[□]み[□]ま[□]日[□]ト。

万葉うと十のまをたかつ人あまきまを[□]け[□]を[□]や[□]ハ[□]や[□]と[□]ら[□]ふ[□]日[□]ト[□]と[□]。何ド歌
 島のや。又十二は[□]は[□]と[□]こ[□]や[□]。十あふたんまら[□]や[□]。十九は[□]あ[□]ら[□]る[□]人[□]や[□]。あ[□]ら[□]ら[□]る[□]日[□]ト。

又一つの格

後十三 いうおせんあまらやあくのまき日[□]や[□]トはのあ[□]た[□]の[□]あ[□]ら[□]ま[□]う[□]く[□]バ
 全八 免うらうこやあ[□]人[□]の[□]あ[□]ら[□]り[□]ま[□]る[□]あ[□]ら[□]う[□]ら[□]の[□]ま[□]が[□]う[□]ら[□]や[□]
 千三 お月あまらふれあづくお神あまてあまを[□]や[□]これのは[□]の[□]い[□]ま[□]の[□]や[□]
 こ[□]れ[□]ハ[□]上[□]よ[□]あ[□]ら[□]ら[□]ひ[□]の[□]ま[□]て[□]や[□]と[□]結[□]り[□]。こ[□]の[□]ま[□]は[□]歌[□]島の[□]や[□]ま[□]や[□]
 云ね お[□]ま[□]ら[□]け[□]う[□]け[□]ね[□]む[□]ら[□]か[□]も[□]ま[□]れ[□]ば[□]あ[□]ら[□]わ[□]づ[□]り[□]人[□]の[□]こ[□]ら[□]や[□]
 ひま[□]中[□]に[□]の[□]り[□]ま[□]く[□]え[□]ら[□]り[□]ま[□]て[□]あ[□]ら[□]ふ[□]よ[□]と[□]ま[□]の[□]ま[□]ま[□]
 何十 新ま[□]く[□]麻[□]の[□]ま[□]が[□]く[□]む[□]ま[□]が[□]え[□]れ[□]未[□]葉[□]の[□]ま[□]の[□]う[□]り[□]が[□]め[□]よ[□]や[□]
 全十五 ち[□]あ[□]ら[□]え[□]て[□]ま[□]ま[□]を[□]ま[□]ら[□]く[□]あ[□]ら[□]ら[□]と[□]ま[□]の[□]ま[□]の[□]ま[□]ま[□]れ[□]く[□]ま[□]や[□]

日十 かのがけりしほど未業を志されぬ。故より田子の恨めりのや

日十 ちいぢいぬ志の小篠はくをほろろをるのや 一葉むかりに

こけりハあきこいさだしものこもりしやとほづり也一のまニつとみ

○そや はをハコのみくもむし

日六 志がせむふがのあき志乃ゆくくからくまふろりえ そや

六ろよぬ 取照 兼川しゆみ月きぬし せむをまめハナラものをもかぶささ次たや

ひをやをいし古き辭にて。ちり日本紀より倭建命の所祀のつづみや
とそく。そやをこさうれあり。七のまちを終りしせり。又原氏を成るの
文とそあけし。そをを看解と解せしハつとぬとちや。

○そや

後十 兼申はうけりのあき そや 人よけりぬとかくふるまきんぐりた

日九 けいご人を志ぐとよはけ月を そや 是むそえをねむすどられ

日十一 あう破乃いそふらごら そや けを そや けをきき人うからくはうら

日一 ぬふそば小田はす そや ぬあ そや 苗代あきをふまうせ

日六 津のふけなふ そや 春ハゆえな そや けの枯葉に風

日十三 宵明をありひ そや け そや け そや け そや け そや け そや け

日六 わが志をせ そや け そや け そや け そや け そや け そや け

日 秋乃兼 そや け そや け そや け そや け そや け そや け

いせゆん け そや け そや け そや け そや け そや け そや け

後三 け そや け そや け そや け そや け そや け そや け

新勅十三 陸幸五 け そや け そや け そや け そや け そや け そや け

後右十六
ねあて

夢うらぎもびていありまたまさうにらふ人あまや又やまむと
こゆるのあまやハ何と新らふ歎島のやを伝ふにてあまむとあまを伝ふ
日ドけ何とや万葉もとえゆ七の毛古風新あま

新和
後永極

むより新あまむにまねる月見えバ時とあまや衣川新
時とあまやみまぶら心を新あまのよかものにかへてあり

極川
後永極

あまのハ時ととらとと事へつあまあふ歎島のやを伝ふ。極川後永極の
ハやうあて個べよろき成いあまれがうううううううううううううううう
ま本集ハハ時ととらとと事へつあまあふ。極川後永極のよかものにかへてあり
もあまやあまな人を何あひきん。まハ了そのあまれとらとら下へやを伝ふ。
そのつりなせしむ。

まぎとやま。あひのく。まあまをよく味あてよれまへまじ。
まぎとやま。あひのく。まあまをよく味あてよれまへまじ。
まぎとやま。あひのく。まあまをよく味あてよれまへまじ。
まぎとやま。あひのく。まあまをよく味あてよれまへまじ。
まぎとやま。あひのく。まあまをよく味あてよれまへまじ。

○ぞや

三の毛ぞのけりおどり

○かや

四の毛かの新あま

こせまでの修へみる歎島のやうり
いづとと下はあまむちやホ
くつとと下

●雑のや

○しじのや

しじのや 伏えの里 ちあや ちうあはひ ちづらまきや ちるあはひ

しじのや 伏えの里 ちあや ちうあはひ ちづらまきや ちるあはひ

こゆるのこゆるは地をまよひつあま。かにおくやまて。のつあまへり。ことえ
上と下との地を別あまを。二つあまへり。上あまへり。下あまへり。

○まのま

○七二

千中にある地名。ゆるふくろきやまのふかやま。かづらきとくろまよと二所とん
 ねのふかがてし。葛城の内よりなるふか。○桂三十二のくろきやま。八丈島の橋つ
 くり。こき八丈やハとくろまよへぞ。八丈へくろき。きづらき。

何れなや いせの海や あがねうらや なふをい や

かくのこりして下へ地名さきのみづもつひりてきり

あきつや やまき おしと や 難波 神風 や い路

けいぶひち。上ハ松河そ下ハ地名。たぬるといひづるや。かろあぬらや。かろ
 どより。但し。ゆるまきまに。いふまはとや。ののゆや。あぐよあるさ。難波。これ
 ころ。まきま。こころハ。まよか。

日 ゆき や ま や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や ま や

けいぶひいとたや

○のや 三の ま の ゆ き

○一のや

日 あ や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や

日 あ や ま や ま や ま や

初六 一つのまふお紫しゆらんおはらうきのわ^りをのら^りへ^りに^り

日七 母をきむくそ^りち^りと^りき^りく^りおく^りひ^りお^りひ^りぞ^り入^りだ^りかり^りき^り

このまの^りか^り。結^りひ^りの^り核^りよ^り同^りじ^りと^り。や^りま^りを^りぞ^りか^りり^りと^り中^りん^りと^り譯^りして
ま^りし^り

日八 命をばあふか^りと^りき^りく^りか^りど^りわ^りき^りや^りた^りえ^りに^りわ^りと^りぬ^りあ^りせん

日九 何^りと^りふ^りあ^りら^りあ^りら^りみ^りら^りら^り人^りら^り先^りは^りく^りま^りの^り派^り

日十 みゆき^りと^りふ^りあ^りら^りせて^り今^りは^りい^りだ^りあ^りど^り志^りの^り橋^りち^りら^りは^りあり^りら^り

あ^りら^りの^りか^りも^り中^りん^りの^りま^りあ^りら^りと^りは^り上^りは^り同^りじ^りと^り。結^りひ^りきた^りら^りあ^り結^りひ^りを^り

日十一 夕^りた^りむ^り人^りを^りき^りそ^りを^りら^りも^りく^りひ^りあ^りき^りん^りと^りと^りあ^りけ^りあ^り身^り

日十二 日^りが^りう^りへ^りり^りあ^りど^りあ^りく^りあ^りら^りた^りの^り川^りと^りも^りく^りも^り松^り乃^りく^りい^りの^りま^りづ^りく^り

日十三 查^り申^りは^りむ^りう^りと^りや^りと^りや^りと^りう^りかり^りあ^りん^り日^りが^りあ^りむ^りの^りあ^りふ^りあ^りけ^り

日十四 日^りが^りた^りあ^りふ^りを^りた^りあ^りく^りう^りと^りく^りあ^りけ^り人^りの^りあ^りふ^り何^りの^りと^りき^りく^りま^りて^りく^り

日十五 あ^りけ^りか^りと^りふ^りや^りど^りけ^り月^りけ^りの^りど^りき^りハ^りた^りと^りて^り人^り乃^り孫^りぬ^りよ^りあ^りれ^りだ^り

日十六 秋^りの^り月^りふ^りべ^りと^りや^りふ^りて^りう^りせ^りと^りも^りわ^りけ^りあ^り茶^りの^り敷^りを^りん^りよ^りと^り

日十七 朝^りら^りう^り田^りう^りあ^りあ^りむ^りつ^りら^りれ^りに^りお^りぬ^りハ^りよ^りを^り今^りは^りう^りに^りあ^りき^りを^りて^りぬ^りと^り

カ^り茶^りハ^りハ^りら^りん^りう^りあ^りん^りう^りあ^りど^りら^りつ^りあ^りり^りま^り一^りその^り例^りを^りち^りと^りま^りより^りこ^りさ^りこ^りハ^り
そ^りど^りあ^りき^りハ^り一^り固^りみ^りハ^りら^りん^りう^りあ^りど^りあ^りハ^りカ^り茶^りの^りあ^りあり

日十八 春^りあ^りけ^り物^りハ^りた^りう^りと^りう^りち^りう^りち^りう^りま^りな^り人^り一^りあ^りれ^りだ^り

日十九 秋^り乃^りあ^りけ^りま^りの^りあ^りり^りく^りを^りあ^りき^りは^りふ^り出^りて^りま^りの^り神^りと^りあ^りん^り

日二十 日^りが^り神^りを^りあ^りふ^りと^り未^りあ^りま^りハ^り心^りを^りえ^りより^り信^りの^りあ^りなり^りハ^り

日二十一 歩^りく^りを^りあ^りけ^りま^りづ^りの^りい^りハ^りま^りら^りふ^りあ^りれ^りと^りま^りあ^りら^りく^りや^りう^りと^りま^りの^りあ^り

日二十二

日二十三

後

川俣の旁にきりぐらふまらわりの人のぞくのえふは

其

ぬめりく 親がふらんをどめべきまかしのあつみさめふら

又此中よりうらむはすことあつた
あつたやうに花やうにうらむ

其

きりぐらふをきりぐらふのきりぐらふにすまらうく 粒のさやぐりゆく

月

けきなのやにぬらぬのうけをぬらぬり 人の神乃秋きり

月

くわにゆくきりぐらふのきりぐらふり まらきのがしきりぐらふ

月

ぬらぬぐらふり ぬらぬをばうりに神ふまらぬにすまらぬ

ひきまらぬの河を下とすことうらむにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ

月

ゆめりり とよえ 一面新の葉にすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ

はかた切らぬきりぐらふをばうりにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ

月

月をあらまらぬり のり ちりぢりなれゆくの末にすまらぬ

こまはりのりなれゆくの末にすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ

月

あつたり ぬらぬと人乃りぬらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ

かきとよめり

まべて後のまらぬにかきとよめりぬらぬの上をばうりにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ
又やのぬらぬにすまらぬ切らぬやの上をばうりにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ
と加の格乃うらむにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ
かをあつたり かきとよめりり ぬらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ
ゆやとらぬり かきとよめりり ぬらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ
格に准へてはすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬにすまらぬ

後拾三

きつをやる世の如く山乃部一も一じう一したあど一り

全八

つらげろとねうらん世にハ世をよよぬゆいのちぬ一人

右一

みよ一聖にふべう一はう一室者り

日三

ま乃乘れふと

日六

浦ちかくゆりう一若はう一は未乃まゆ一とぞみる

日七

玉ぼくはこそつひあこまだハあん人をそふも

たの言ちハ加ハ加

○加をきある格

右三

こぞのまをたふ

日十八

よの中をま

後去

あをきり

後七

はのゆれあゆそわ

日六

いき

日七

こがよをバ

日十六

れりふべき

ハ二つ

右五

秋ねは

日十七

ちう

日十八

うつ

は茶葉のちうハ中の加

○むのを

○廿八

右十三 志やこゝろ 蘇やゆきまんとしむるまう うつり 秘てり ことわり
新抄 ありんこ 羞り うつり ことわり して あり ことわり ありきり ありきり ありきり
けさハ二つづ 二つまきわり

○かえのまの加

後八 けのちう ばあをでう ことるまが ぐを 秘り げと 人乃 けぎく 依

けかを 依のあをふまて 下へつ かくて けのまこと
此トハみる切かきり

右十七 おいぬとく ちどろ 蘇をせまきま かいむ ばら ぶ ありま けり 物

新抄 うねよをばそむ ぐを ちやとそむきま 物も けり と 八ねむき あり

後十九 かくてのまやむ びまのめり ちやが けり けり けり けり けり けり けり

後十 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

新十 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右二 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右四 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右六 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右七 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右十 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右九 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右十 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右十一 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

右十二 ことわり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

後

まじりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて

日

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

チ

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

日

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

○

かゝるものか

チ

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

日

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

日

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

日

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

右の片もあふれどいづれも花の下にありてはさすては加のまじり

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

○かゝるものか

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

まぢりしもの う 心ゆくもあはれはらへぬとて う 志しきより

右七 うさねうさねうさねうさねうさねの志をくもえまくれりきか津崎 くも

日千 お八夜ねきどくれまぬ柳葉乃之はるあだれ柳のま くも

ひくとあまにいとわたり。さべてうのあまくをいふてはきくして。あまくと
のいづり。あまのあまににあやうきことまふあまのま

○免かよ

右七 山科はかよもの心乃きりいふ人のあまべくまらひ 免かよ

万五 ちちのあま下ゆねはくぐりたつくその心まこひも 免かよ

ひか万葉十日のあまうと二三つ者又あまの文あま今まといひあま

○かふ

右七 ちくくあちまかむらりまおろくはんとつあま かふ

同十五 ちくくあちまかむらりまおろくはんとつあま かふ

右二 心ぎやにちる人もが柳はまぎれあま くふ

右三 みたむくはあまの心乃心人ま人も くふ

ひくあのかを後あまはてよあまをいふま かふ
いづりあまのま かふ

○かや

右十 こかよべま かや

小大右 なつりせいであまをいふ かや

○ちちあまのあま かや
あまのあま かや
あまのあま かや

右七 あふと かや

あふと かや

全六 いむらり神もくわくとみくさ山二葉は去乃ちよはくたを
 月八 いふくしてふかをきりつゆもさど いづつハくふくふたきき
 月八 いくさりはしと人をみまぬのうらたしきくきくきくきく
 月八 たきをくも たけは乃女帝を秋と葉も人ぞ たけし
 月六 たくさ秋の神をたききく たが神ふらり たの月
 月六 月ぞき たきハくは たきの たや吹上の たきむらり たけし
 月十 いづくふりこ いは いを いかり いも いも いゆ いた いの いけし
 月六 いち いて いは いき いき いき いき いき いき いき
 月六 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ
 月二十 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ

万九 海の子へ乃は秋の山ゆ秋はべりきき海を たき たき たき

○金葉三回へ いの いの いの いの いの いの いの いの いの

○切る何 夜のもをたけり

後十三 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ

後十八 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ

保氏 竹河 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ

又下に いの いの いの いの いの いの いの いの

後十二 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ

後十五 いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ いふ

○志の いの いの いの いの いの いの いの いの

○志の いの いの いの いの いの いの いの いの

OKAS

○何をきやう格

後十八 帯をき いうふ や いうふ 風のき 成 中 申 おもいまはりの やがし 一き

後八 よめをうばく いうふ くのき 一ハ いうふ や いうふ あんご 七 はん

夫本 此きをき 後きをき いうふ いうふ せんり せんり せんり もむ せんり が せんり つ

あまのこをにき いうふ 一き いうふ

後六 玉にこむ けり けり 小物ゆ けり 一にて 大きき 大きき 一と せんり せんり

格二十 おりひ 一人も 有ら せん 中 一いつ 一き 一いつ 一と せんり せんり

格三 こと けり どの おき せん せん けり けり せん せん たが 里より 一と 大きき せん

月八 たが 一と せんり 一いつ けり せんり せんり せんり せんり せんり せんり せんり

後八 一いつ せんり 一いつ せんり せんり せんり せんり せんり せんり せんり

月十五 いうふ 一いつ いうふ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

後後五 せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

格四 せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

又お對へて せんり 一いつ せんり

後二十 せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

格九 せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

後八 せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

○彦田社合のり せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり 一いつ せんり

○色とあゝ格 け格はひよかりんげ

右二 ぬきつゞぞろひてきりつゝ幸お月おまきハ **いく** とうじとぞへを

日十三 うむお結やこ乃うつはささうまゝ **いく** ともまうづりきと

日六 **いく** よくともうくくいおをさぞもかくらお結くもみおひみぎく

辰一 きりおろく人ーおろもばまのせおころも **あふ** ともひおかりり

日六 **いつ** こそ月見ぬ秋きなれりのまふてこよひの光づじき哉

日二 **づく** お色はきハきうめどおを戸のやまをけ子たきふんせまー

辰九 **はびー** さふおど決まおてあうじこハ **いく** とも同ド結乃夕暮

日八 **たき** がよととが母ともぬよの中ハま川おどいをうんとさん

日十五 月見まば **たき** ともんぞなぐさまぬ嬉け山乃ぬめやあうぬど

日十 **いつ** よりともりのりなれよの月をまびんぐ人さへふいぐえん那

辰七 **いつ** ともきく物とや人乃おりやんおぬ夕ぐせおき川おの勢

日六 **あう** じこー **たが** かつちりともまぶらうでまるとせーはのなれまき生

○あぞとのともハ別あり
件のさぞとのさくともあうまきハその下れ結びまハくろんげ

辰九 **ちう** こお結ちりーむとよせーかど花んさおを **いく** ともかー

日七 **わが** あひおゆーみろりまうあうーげ **いく** ともれぞとこらういんおま

辰七 **こ** うおてともらうろへぶ川お結夜 **いく** へうさぬらふ海ありそと

○あはくもとぞととあもも色に何ド

○色とあゝささくともりどあき格

右十 **いま** いくらまきーなるまバるも物ちあがぬそありのあべうらま

後拾

たぐく乃まふは榮志のぎあゝ者の

約七

まがた老り一修くき人をばあまきあぐ

約一

あはどのまきゆくて乃ちゆり

凡十

人しきんあまあちちへてと

こまじつはもとといふなれた。もとあてをこし。このあてはまろし。色を入れてんたべー。凡雅十二名あまあちちゆり一修くきあまの光がつし思ひあまふま余あまぐさかんぞあまき。こまはまろし一いつあまやあま

○一つの何

け格あびりかひりうま

古吉

みちあくのあぶららざり

月

はのあはちふをわりんはひーろれ

月二十

みちのくハいづくをりきど培あはれ庸こどね乃つまでかひーと

五八

いづくあをなきと一にきん部へ乃里にらあのとぞちく

月十七

梅あいつをまじと一とちきあさうとハ惜きあたる

此格ハそのさうしてつあは對へて。そとちあな他の物を何とつあ。古々ナ田のうハ。思ふ人又對へて。ま他の人をさうと一いつ。あまあまき。他の人あふみぎんし思ふあ。ちちくにし。又ああを思ふハ。まをにまきん。まのこを思へ。ま他の人ハ思ふん。いづくハちとハ。他のあをいづく。いづくハあまきと一にきん。他のあ。ハあまきもあふん。いづくとちと。思ひあ。他のあ。ハ。いづく。ハ。別本まきあ。の條はあまき。

あの修くハ何のあの舞あ。まべてにまき格とと。一つの辞どああ
あのかきまきづかあは。格あは。け下は。あてあせり。

なふ

○あま

○あのを

○あ

古十五 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
及九 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる

○あふせんふ

古十六 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
及十 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる

こゝにハせんわくしやうを添へり。そそたやうの切也。後換あつハ切也。ハ切也。

○あふせん

古十七 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
及十一 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる

○あふふ

新編十一 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
古系蔵方 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
六万 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる

○あふふ

凡二 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
白河 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる

○あふふ

新編二 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
あり 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
新編十一 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
後系蔵方 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる
下野 万ひんがはさるるもまをれみるせ川 あふ 万ひんがさるる

○あふふ

后土 麦粒ぶととくねき物とをくりあて
 あふ マ人よりやと見つらん
 橋川 ろそ とうねーヤコダよこのりきくさきふ
 あふ マ マ まで事の小まをいさぐぞ
 ○あふそ

新古 うね人乃月とあふ マ そのゆるさとをとりむるぐもらけをまつ
 けそはれづし。猪三の毛どのぬいこの條マ ーくろくろつり
 ○あふそハあふそとくろくろつり。又あふそれぞをありとわく古との後ハアハなす
 ○一つの花

全 又 毛落乃まをさけ救もあふ マ あふ マ けきせをさるゝあふ マ けり代りも
 後七 公宴つ 毛が代の救よりくべむあふ マ けりト。みねけ候のよあ砂よりた
 大和 河 けり マ らかりもくきけり。よあつひけむえをみふと見るづり
 橋川 ろそ あひえてのけりくこのまけりくけり。ばちちー月日もあふ マ あふ マ けり
 けり

○あふそを 二の毛どのぬふけり
 ○あふそを マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり
 ○かふとけり マ けり マ けり マ けり マ けり
 ○あふそを マ けり マ けり 二の毛を交換けり マ けり
 ちのかあけり マ けり

● けり

○下にかりとをけり マ けり。あけり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり
 ふくおけり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり マ けり
 ○けり マ けり

○けり

○けり

後拾 十 **あど** てかくきぶらうらんかくむうりのどくふさをきく月もつる世ふ

千三 **あど** てうくおひひそめきん部ら音結みやるのは乃ちあふは

いせ **あど** てかくつらどかていふらうらにせんあひうさぶとむきぐい物を

ともしつてをきり
又てかそくとつハ

後拾 二 **あど** みちよへうなりけし物を **あど** てうはりけし物もそいあつそめ

○あどや けまやの給ふせり

たのかあそおつてな

●あど

○下ふかりトをわく例き

○あぞと

右 十 **あぞ** 火りけしぬあひの **あぞ** とかく後の何よりけし物らん

全七 **あぞ** とかくいらしむあたらけし何や老茶あきりきくもみ月あらん

抄後拾一 後ふの院 **あぞ** みる人乃赤路つるまうて花ばかり **あぞ** ーとかくつるあつらうか

あぞーとハあつらう

○あぞや 此まやの給り出せり

○あぞと みのまとの給ふ出せり

たのけしあつらう

●あつらう

○ 孫がよきのいふふしを

後 孫はよきおととしをいふ

○ 孫十 孫のついでに

いふふしをいふ

○ 孫十三

いふふしをいふ

○ 孫十四

いふふしをいふ

孫はよきおととしをいふ

○ いふふし

いふふしをいふ

おのちよきおととしをいふ

● いふ

○ 下にかりで残れく係り

○ いふふし

孫十九 よきおととしをいふ

孫十二 のかりをいふ

かゝりおととしをいふ

けりことおととし

● いふ

○ 下にかりをいふ

○ 孫がよきのいふ

孫はよきおととしをいふ

後十五

いふふしをいふ

○ 玉の日記

○ 玉の日記

日十九 いろで あやかしざりふりし身を帯して露なき露ふそしんとぞあや

日二十 いろで きらり何ふみやこへ告やうんらあ白川乃雲をあらぬや

日二十一 いろで 恋といへむ同ドあふもあやうき いろで 赤身を人よまうせん

日二十三 いろで 羨をいふ いろで かこふふえてしうがふ何ぞゆよのあふあせん

日二十七 いろで あや何ドろおをふあうりんあやよりそりあはぬと

新秘七 いろで みる人の いろで とたりあやうが川よた来しとををいのらあは

又かき添ていふもあり

お十一 いろで くとありあやうらあは いろで ちきハあがめくさぞうけりり

又色を添ていふ

夫本 いろで 色とあやんをほりかめ井よりと程ぞ色さきとあは

又ニしき いろで あやんをほりかめ井よりと程ぞ色さきとあは

お十五 いろで あやんをほりかめ井よりと程ぞ色さきとあは

右の印あたるとうり

● いろで

○ いろで あやんをほりかめ井よりと程ぞ色さきとあは

○ いろで あやんをほりかめ井よりと程ぞ色さきとあは

右乃印あたるとうり

● いろで

○まぶるいづらハ皆切し格を下へつる例をあり法なきはやくおぼやけ

右十七 **いづら** 此より切し小がえや **いづら** 此より切し乃辰よきあきふおふらる

後十九 **いづら** 姉もあやに志と **いづら** とまらふいづらとのえお辰といえはし

いせ **いづら** へ乃あひひと **いづら** けらむこきかろまもあふらる

右十八 **いづら** 弟のまてあし **いづら** ちんあふらる

新 **いづら** いるづらはてらるよしもあふらる **いづら** へのふおししうをらる

後衣 **いづら** きのえらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

又下へを添てまらる

右十九 **いづら** むつとともまぶつきあふおぬまを **いづら** ちんあふらる

後十 **いづら** ともかくともいふまはあふらる **いづら** ちんあふらる

全八 **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

右の卯あしあふらる

いづら

○いづら ちんあふらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

後一 **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

後二 **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

右四 **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

後八 **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる **いづら** ちんあふらる

